

第3号様式（第7条関係）

平成29年11月19日

開成町議会議長 茅沼隆文様

開成町議会議員 前田せつよ 印  
(代表)

派遣成果報告書

派遣の区分	<input type="checkbox"/> 委員会派遣（_____委員会） <input checked="" type="checkbox"/> 議員（複数） <input type="checkbox"/> 議員（単独）
目的 (調査事項又は 研修項目)	「平成29年度議員県外行政視察」 北海道中川郡幕別町 ① 役場庁舎について 北海道十勝郡浦幌町 ② 議会改革の取り組みについて
目的地	① 北海道中川郡幕別町 住所：北海道中川郡幕別町本町130番地1 ② 北海道十勝郡浦幌町 住所：北海道十勝郡浦幌町字桜町15番地6
期日(期間)	平成29年11月18日（～平成29年11月19日）
視察又は 研修の成果	別紙のとおり

## 神奈川県開成町議会視察研修会出席者名簿

役 職	議員名	所属政党	備考
議 長	茅 沼 隆 文	無所属	
副 議 長	吉 田 敏 郎	無所属	
議 員	佐々木昇	無所属	
議 員	山 田 貴 弘	無所属	
議 員	湯 川 洋 治	無所属	
議 員	前田せつよ	公明党	代表
議 員	石 田 史 行	無所属	
議 員	菊 川 敬 人	無所属	
議 員	下 山 千 津 子	無所属	
議 員	井 上 三 史	無所属	
議 員	星 野 洋 一	無所属	

### 随 行

議会事務局長	小玉 直樹
議会事務局書記	指宿 卓哉

## 県外視察成果報告書

代表幹事 前田 せつよ

幕別町は、パークゴルフ発生の地として有名であり、開成町にとりましては、災害時の応援協定を4年前に結んでいる他、様々な交流がはかられている町です。幕別町の庁舎は、昨年3月に完成しており、今回の視察では、議会の議場内設備の運用状況など具体的な視察をすることができました。

2日目の浦幌町では、議会改革の取り組みを視察の目的として伺いました。2年前の町議会選挙では、議員定数1名の欠員が生じて、全国的に問題視されている「議員のなり手不足」に直面している議会でした。対策として町民2000人を対象にアンケートなどを実施し、その声をもとに議会の活性化を勢いよく進めていることを実感しました。例えば、小中学校の授業として議会の傍聴を開催、他にも「まちなかカフェDE議会、まちなかおじゃまDE議会」として、スーパーの入口ホールに旗をたてて気軽に議員と話す場を設けているなど、柔軟な取り組みが展開されていました。また、議員以外の方がメンバーとなる「議会モニター会議」が設置されて、議会の大きなバックアップ機能を果たすという、斬新な取り組みもありました。

浦幌町議会の議会運営などを十分に精査しながら、開成町議会の議会改革の一助としていきたいと思えます。

派遣成果報告 北海道幕別町 平成 29 年 10 月 18 日（水）

「役場庁舎について」

「庁舎基本方針に対し、町民や職員の反応、当初予定したサービスとの比較」

「議会機能について」

#### 役場庁舎について

ユニバーサルデザインの理念を取り入れ、高齢者や障がい者、子ども、外国人などに配慮した利用しやすい庁舎を目指しており、環境負荷を低減するため、自然エネルギー等を導入し省資源、省エネルギー対策を行っている。関連窓口は、ワンストップサービス手法を取り入れ、住民の動線に配慮した待合スペースや相談室を確保しており窓口のカウンターはプライバシーに配慮したつくりとなっている。また防災機能として耐震性を有した耐震構造や免震・制震構造となっている。

庁舎基本方針に対し、町民や職員の反応、当初予定したサービスとの比較

基本理念を具現化するため、6つの項目を基本方針とした。 1、すべての人が利用しやすいユニバーサルデザインが図られた庁舎 2、住民の触れ合いの場として親しまれる庁舎 3、多様化する行政需要の変化に対応可能な庁舎 4、防災・復興拠点としての機能を十分備えた庁舎 5、経済的で維持管理のしやすい環境に配慮した庁舎 6、幕別町のシンボルとなるような庁舎との項目を設けている。

町民や職員の反応はよく当初予定していたサービスとの比較においては十分満足しているとのことだった。

#### 議会について

議場は意思決定の最高機関として独立性を保っており、住民に開かれた身近な議会機能の確保ができています。

傍聴席はゆとりがあり車いす対応もできており、住民に配慮したつくりとなっている。議場や委員会室は、住民が利用できるよう多目的利用の配慮がされており「議場 DE コンサート」とし、町議会をより身近に感じていただくため議場コンサートを開催し解放している。また議場で行う本会議、各委員会は議会ホームページでライブ中継を配信しており、過去に行った本会議などの録画中継も議会ホームページで見ることができる。

開成町議会議員 湯川 洋治

派遣成果報告 北海道浦幌町 平成 29 年 10 月 19 日 (木)  
「議会活性化の取り組みについて」

浦幌町(総人口:約 4,900 人、面積:約 730 ㎡)は、北海道十勝郡の東部に位置し、農業・林業・水産業といった一次産業を基幹産業とする緑あふれる自然豊かな町である。

一方、浦幌町議会では、平成 27 年 4 月の統一地方選挙で、議員定数を 13 から 11 に減らして選挙を実施したが、結果は 10 人が無投票当選で欠員が 1。全国で 4 町村が定数割れとなったが、浦幌町がその一つとなった。

そこで、選挙後すぐに 4 年間で「第 2 次議会活性化期間」と位置づけ、①地方議会の役割(議員定数・議員報酬)②監視・評価機能の強化③調査、研修、政策立案機能の充実④議会組織、議会運営のあり方⑤町民に身近な・開かれた議会の 5 項目を活性化の視点として設定し、特に①において「議員のなり手不足解消」を最優先課題とし、平成 29 年 3 月に「議員のなり手不足検証結果報告」の最終報告書をまとめた。

なお、最終報告に至るまでには、大学教授の講演会・意見交換会、町民 2,000 人へのアンケート調査、議会報告会、まちなかカフェ DE 議会、平成 28 年 12 月の中間報告及びパブリックコメントなど、60 回以上の協議・検証を重ねている。

主な内容は「若者手当・育児手当の支給を可能とする議員報酬のあり方」「選挙時のポスター、選挙カー費用などの選挙公営の拡大」「サラリーマンが議員として活動できるように会社に補助金を支給する(仮称)議員チャレンジ奨励・雇用促進事業創設の提案と検討」など 10 項目で、法及び制度改正が必要であるとして、国に意見書を提出している。現在、議員のなり手不足解消に向けて議員報酬(現在 17 万 5 千円)の増額を検討している。

当町含め多くの地方議会が抱える課題でもある、「議員のなり手不足問題」を体系的に分析・検証し、国に対して直接提言を行った浦幌町議会の取り組みは、大変参考になった。今後も同町議会に注視したいと思う。

平成 29 年度議員県外行政視察 派遣成果報告書（別紙）【北海道幕別町・浦幌町】

佐々木 昇 議員

幕別町 役場庁舎について

平成 28 年 4 月に完成した新庁舎は鉄筋コンクリートの 3 階であり免震構造や省エネルギーへの対応など、現在、開成町で計画をしている新庁舎と規模は違うが類似点が多い庁舎であった。延べ床面積は 5 千 2 1 7. 5 9 m<sup>2</sup>であり、事業費（設計等・建設・解体・外構）は 2 8 億 7 3 9 6 万 2 千円であるが、合併特例債が 2 3 2 万 3 千円あり、その他、補助金等を加えると一般財源負担は 3 3 9 6 万 9 千円とかなり財源負担は軽減されていた。そんな中で建設された庁舎でも紆余曲折あり、折衷案等の調整に苦慮されたとのことである。

本町も新庁舎建設に向けて進行中であるが、今後も議会としてしっかりと注視していかなければと強く感じた。

浦幌町 議会改革の取り組みについて

平成 23 年から約 7 年間、議会の活性化に取り組んでおり、昨年は全国で 2 議会が受けた平成 28 年度全国町村議会議長会「町村議会特別表彰」を受賞している。

様々な取り組みの中には地域の違いも感じられたが、参考になることも多かった。限られた時間での視察だったので時間が足りなくなったのは残念だったが、有意義な視察であった。

山田 貴弘 議員

[北海道幕別町]

開成町の新庁舎建設と同じくして、現庁舎の耐震性の不安・不十分なバリアフリー・防災、復興拠点の不十分な機能・狭隘化等、様々な問題点を抽出し、議論を経た中で建設の判断が下されていた。

検討経過の中で、新庁舎の位置については政治的判断が加わったように感じた。敷地面積・用地の確保・利便性・均衡ある発展の確保と基本的な 4 つの条件を考慮し、6 つの候補地を選定し、それぞれの特徴について比較・評価して抽出していた。結果、現庁舎敷地（北側・幕別市街地）の選定であった。

人口比、幕別市街地 1 5. 8 %（4, 1 9 1 人）・札幌市街地 6 4. 9 %（1 7, 2 1 9 人）・幕別農村地区 5. 1 %（1, 3 6 7 人）・札幌農村地区 5. 2 %（1, 3 8 8 人）・南幕別地区 2. 9 %（7 6 4 人）・忠類地区 6. 1 %（1, 6 1 8 人）である。

ポイントとして、均衡ある発展の確保が作用している。また、幕別地区に住んでいる議員は、半数以上所属していたとのことであった。

町民の利便性を考慮すると札幌市街地となるが常識であるが、将来を描いたまちづくりは、幕別と札幌を一つの市街地、幕別市街地が過疎にならぬよう人の誘導を図っていることが視察によって得ることができた。

[北海道浦幌町]

議会活性化の推進は、町民に開かれた議会・議員の活動義務等、町民の代表としての使命を果たすために日々改革を行ってきています。

この度の浦幌町議会の視察では、可能性にかけた「議会活性化の取り組み」を推進するとともに、「議員のなり手不足の解消」に取り組んでいました。

(町長・議員選挙における無投票当選、定数割れの問題を抱えていました。)

開成町議会に取り入れていない事業では、出席状況の公表がありました。当初、改革を進める立場からは、出席は当たり前と考えていたので採用はしませんでした。今を見る中では、考える時期に来ていると感じています。

本来の改革とは、議員となったときに矛盾点に気が付き改革が始まると思うのですが、現状は違ってきています。

違う角度から検証してみると、事業の充実・活動の活性化を図るということは、拘束される時間が増えます。子育て世帯でも、専業として議会議員活動が出来る制度および体制づくりを図ることが重要であり、なり手不足を解消することができると思っています。(報酬のあり方・議会の活性化・公務以外の活動等)

あわせて、地方議会議員の魅力を発信していかなければならないと感じた視察となりました。

湯川 洋治 議員

幕別町役場庁舎について

ユニバーサルデザインの理念を取り入れ、高齢者や障がい者、子ども、外国人などに配慮した利用しやすい庁舎を目指しており、環境負荷を低減するため、自然エネルギー等を導入し省資源、省エネルギー対策を行っている。関連窓口は、ワンストップサービス手法を取り入れ、住民の動線に配慮した待合スペースや相談室を確保しており窓口のカウンターはプライバシーに配慮したつくりとなっている。また防災機能として耐震性を有した耐震構造や免震・制震構造となっている。

新庁舎の基本理念として、人と環境に優しく、町民に開かれた、町民の参加と協働による「まちづくりの拠点」としている。

議会の傍聴席はゆとりがあり車いす対応もできており、住民に配慮したつくりとなっている。

議場や委員会室は、住民が利用できるよう多目的利用の配慮がされており「議場DEコンサート」とし、町議会をより身近に感じていただくため議場コンサートを開

催し解放している。また議場で行う本会議、各委員会は議会ホームページでライブ中継を配信しており、過去に行った本会議などの録画中継も議会ホームページで見ることができる。

#### 前田 せつよ 議員

幕別町は、パークゴルフ発生の地として有名であり、開成町にとりましては、災害時の応援協定を4年前に結んでいる他、様々な交流がはかられている町です。幕別町の庁舎は、昨年3月に完成しており、今回の視察では、議会の議場内設備の運用状況など具体的な視察をすることができました。

2日目の浦幌町では、議会改革の取り組みを視察の目的として伺いました。

2年前の町議会選挙では、議員定数1名の欠員が生じて、全国的に問題視されている「議員のなり手不足」に直面している議会でした。対策として

町民2000人を対象にアンケートなどを実施し、その声をもとに議会の活性化を勢いよく進めていることを実感しました。例えば、小中学校の授業として議会の傍聴を開催、他にも「まちなかカフェDE議会、

まちなかおじゃまDE議会」として、スーパーの入口ホールに旗をたてて気軽に議員と話す場を設けているなど、柔軟な取り組みが展開されていました。また、議員以外の方がメンバーとなる「議会モニター会議」が設置されて、議会の大きなバックアップ機能を果たすという、斬新な取り組みもありました。

浦幌町議会の議会運営などを十分に精査しながら、開成町議会の議会改革の一助としていきたいと思えます。

#### 石田 史行 議員

平成28年4月に新庁舎（地上3階建て、延べ床面積約5,200㎡、鉄筋、免震構造）が完成したばかりの幕別町ということで、興味深く視察した。

特に建設事業費が約28億7千万となったものの、同町は近隣村を平成18年に吸収合併した関係で、財源として約23億2千万を「合併特例債」として起債し、返済額の70%が国から交付税として補填されるため、町財政への負担を最小限に抑えたのが印象的であった。

また、新庁舎の位置については、町内人口の約65%を占める札内地区ではなく、町内人口約16%に過ぎない旧庁舎地区に決めることができたのは、老朽化した札内支所を約11億円かけて建て替え、新庁舎に行かなくても支所でおよその住民サービスを受けられるようにしたためと考えられる。支所建て替え費用は合併特例債と国の補助金を活用し、一般財源は最小限に抑えたと説明を受けたが、正直苦肉の策と感じた。それほど町民の反対が起こらなかったのもこのためではないかと推察する。



我が町も新庁舎建設に向けて走り出しているが、合併特例債を活用できた幕別町特有の事情を踏まえれば、我が町の財源確保策としては基金の積み増しと国の補助金の活用ぐらいしかないのが現状であることを鑑みると、このまま今の設計で進めて良いのか改めて疑問に感じた。

#### 菊川 敬人 議員

10月19日議会改革を進めることを目的として、人口約4,900人の浦幌町議会を訪問した。全国町村議会議長会マニフェスト大賞を受賞したことで、改革を目指す地方議会からの視察が増えている。

開成町では、平成19年に議会改革委員会を設置し、先進的な改革を実戦してきたが、浦幌町も同様な改革に取り組んでいた。

特に、全国的な人口減少から、議員のなり手不足が今後の大きな課題となることが予測されるため、議員のなり手不足解消のため、環境整備を求める意見書を国へ提出している。その対策として、町民との対話に努めていた。平成28年から、まちなかカフェで議会と称し、少人数を提唱に意見交換を行っている。また、議員報酬が全国平均を下回っているため報酬をアップすることの検討がされていた。

議会改革へ向け、議会運営に係る意見交換や定例会議等で6人の外部モニターを置き議会の外部評価を実施していた。

議会運営委員会を中心に一貫した活動が実施されているが、その背後の事務局との連携も強固なものであるよううかがえた。積極的に前を向いた議会改革であることを実感した。

#### 下山 千津子 議員

平成28年4月に新庁舎が完成した北海道中川郡幕別町役場を視察しました。総人口は27,173人（2017年6月末現在）、面積477,64km<sup>2</sup>パークゴルフの発祥地があります。開成町と幕別町は、パークゴルフで培った友好関係をもとに災害時相互応援協定の締結や子ども達は、夏休みにあじさい塾で交流があります。

また、あじさい祭りでは幕別町の物産展開催など都市間交流を進めており、深く繋がりのある町で親近感を抱いての視察でした。新庁舎建設の必要性や基本理念は、類似点が多く機能面で大きな違いは、水資源が豊富な我が町が誇れるZEBへの取り組みで年間エネルギーを57%削減できること。電力の地産地消の促進と防災対策が万全であること。開成町らしさ(あじさいパネルなど)を随所に取り入れたレイアウトを採用している事。3階の議場設備は、佳境に入ったが画期的なレイアウトは傍聴者席が議員席の後方だったのが横席になったこと。また床吹出しでフレキシブルな対応ができるシステムを採用など今後も庁舎建設特別委員会で決定事項があるが、

視察を参考にし高齢者や障がい者をはじめ、すべての町民が利用しやすい、行きたい庁舎を目指して意見を述べていきます。

#### 井上 三史 議員

幕別町視察について報告いたします。役場庁舎と議会機能が主な視察項目です。役場庁舎は地上3階建て延べ床面積約 5,200 m<sup>2</sup>、鉄筋コンクリート構造、免震構造で建設事業費は約 29 億です。主な歳入は地方債約 23 億、建設基金約 2.3 億でした。ワンストップサービスは動線がポイントだそうです。また、1 m<sup>2</sup>の熱量が旧庁舎とあまり変わっていないことが課題であると説明があった。省エネシステムを使いこなせていないので省エネ化を追求していくとのことでした。議会機能ですが、議場は意思決定の最高機関としての独立性が保たれていた。傍聴席は住民に利用しやすい配慮がなされていた点が参考になりました。庁舎内は全体的にゆとりのある広々とした感じの作りであった。施設では図書館が印象に残った。平成 26 年に図書館運営の全般を見直し、図書を地元書店から購入し、図書装備を町内障がい者就労施設に受注するなど、地域住民のための取組みを実践していた。また、図書管理をバーコードからカメレオンシステムに替え、管理運営を飛躍的にスピードアップさせていた。開成町でも図書館について考えたい。幕別町は町民の文化レベルが大変高いという印象を受けた。

#### 星野 洋一 議員

幕別町は北海道十勝総合振興局管内の中川郡にある総人口 27,173 人面積 477.64 k m<sup>2</sup>の町である。パークゴルフ発祥の地でもある。

旧庁舎は、昭和 47 年 7 月に竣工し、筑後 40 年が経過し平成 15 年 9 月発生した十勝沖地震で被害を受け補修をしたのち、平成 28 年 3 月に新庁舎の建設をした。

建物は地上3階建て延べ面積は 5217.59 m<sup>2</sup>であり、建物の空間的広さを感じた。構造としては鉄筋コンクリート構造（開成町は混構造（鉄筋コンクリート造+鉄骨造））である。免振ゴムとダンパーの免振装置にて耐震性の確保をしている。開成町も同様な装置を導入予定であり震度7を震度3程度までの軽減を可としている。再生可能エネルギーの活用としては、地中熱ヒートポンプ・太陽光発電装置を導入している。太陽発電は設計通りの出力が出ているが、ヒートポンプについてはまだ効率的に行われていない問題点があった。ZEB（ゼロ・エネルギー・ビルド）への取り組みにより年間エネルギー79%削減を目指している開成は、システムの運用方法には最善の取り組みをしていかなければならないと実感をした。大きさの違いがあったが、同じようなコンセプトによって建てられた庁舎は、開成町の新庁舎建設の参考になった。

吉田 敏郎 議員

所感等

平成 28 年 3 月新庁舎竣工の北海道十勝郡幕別町へ建設後の、町民へのサービスの向上と課題、議会機能について視察した。1 階に「住民窓口サービス・憩いの場」、2 階に「経済部、建設部、企画総務部」を集約し、また、オープンフロアの執務スペースのため、フロア全体が見渡せる配置となっている。3 階は、「議会・防災対策」として議場や災害時の防災対策本部となる会議室などを配置。庁舎内の全ての段差を解消し点字・手すり・多目的トイレ・オストメイト等も設置しているので、車椅子の利用を含め全ての方が安心して安全に利用できるつくりとなっている。また、省エネルギーに対応し、環境にやさしい施設になるよう、いたるところに工夫が見られる。町民からは、ワンストップサービスにより、あちこち移動することなく用を済ますことが出来好評である。課題としては、現在も外構工事をしているが予算の減少により、当初よりも外構設備が簡素になる予定である。議会機能においては、議場、傍聴席、議員控え室、議会中継配信システム等、参考になることが多くあり、新庁舎に関する調査特別委員会の中に活かしていきたい。